

宝塚市清荒神のチョウ（追録3）

加藤 信一郎

秋に入ってクロコノマチョウ、ヒメアカタテハが新たに確認されたので報告する。

1. クロコノマチョウ *Melanitis phedima* Cramer

1♀, 18-9-1983.

採集場所は旧街道より北の、荒神川西岸を少し入ったナラ、クヌギなどの雑木林で、樹木の腐ったほらに静止していたものである。

きわめて新鮮な個体で、1. 前翅端の黄色斑は広くて赤みが強く、2. その中にある黒斑内の2白点の中、上部の白点は外縁寄りに位置する。3. 前後翅端外縁は強く突出する。4. 裏面は淡茶褐色で、前翅に2本、後翅に1本の縦條をもつ。これらから明らかにウスイロコノマチョウと異なり、クロコノマチョウの秋型と同定される。採品は後翅裏面外縁の小白点が6個完全に散現している。

本種は熱帯系で、九州・四国・静岡以西の本州に分布する。近畿では稀にしか見られない。宝塚市における記録としては、筆者の資料によると、1955年8月5日宝塚付近、1959年7月15日同市内長寿ヶ丘で採集された古い記録があるのみである（東 正雄, 1965, 京阪神の動物, P20, 21）。採品は偶産種と思われるが、採集地周辺は、ジュズダマ、ススキなど食草には事欠かない環境にあるので、今後も調査を続けたい。

2. ヒメアカタテハ *Cynthia cardui* Linnaeus

1♀, 23-11-1983.

採集場所は阪急宝塚線と交差する荒神川西岸沿いの畑地である。当地では初の記録であるが、市内さらには隣接する伊丹市昆陽池付近でも観察・採集されている。

いずれも宝塚市立高司中2年谷友晴君が採集し所蔵している。

これにより清荒神で確認されたチョウは44属56種となる。

なお本年も春先からナガサキアゲハが発生し、観察頭数は昨年以上で、自宅庭にもしばしば飛来するようになったが、依然♀は観察できなかった。又9月10日ダイミョウセセリ1♀を自宅裏の小道脇で採集した。第3化の採品は始めてである。